

# 杉戸町今昔往来伝

古きをたずねて  
杉戸を再発見  
第111回

郷土の偉人・大島有隣

石門心学入門⑬

京都心学界とは対立関係となりながらも、大島有隣は、関東心学の指導者として、その後も精力的な活動をみせます。

有隣が講釈をした大名は、中国・四国地方にとどまらず、和泉国岸和田藩（現大阪府岸和田市）の岡部長慎、三河国岡崎藩（現愛知県岡崎市）の本多忠顕、駿河國小島藩（現静岡県静岡市）の松平信友、越後国椎谷藩（現新潟県柏崎市）の堀直哉などまでに及びます。

旗本に至っては、大島村（現杉戸町大島）の知行主である三宅氏を始めとして、松平但馬守、小田切土佐守、菅沼左京亮、松平対馬守、浅野内記、牧野伊予守、松平主計など枚挙に暇がありません。有隣は、江戸にあって大名・旗本の邸で、或いは町方の家に向いて心学講釈に務め、その間隙を縫って地方遊説を行っていたのです。

更に有隣は、文政二年（一八一九）九月に幕府の命を受け、脇坂義堂の後を継いで人足寄場教諭方となりました。有隣就任後の文政六年二月、時の寄場奉行である高柳平次郎から、幕府若年寄の田沼意正へと提出された進

達には、つぎのような記述がみられます。

「当未年迄引続毎月三度つづ無懈怠罷出、打はまり道話仕候処、人足共一同に感服仕、有隣門弟に相成候者も御座候間、自然と人氣穩に相成、旧来之志を相改、職業働方等出精仕候者多分出來仕、教導之一助に相成、追々改心之者相増候得者、此後引続、於寄場心学為仕、人足共え為承候様仕度奉存候」

有隣が人足寄場で心学を講釈したのは月三度であったこと、有隣に弟子入りする者もいたこと、また心学の効果が絶大であったことなどがわかります。この人足寄場での有隣の心学講義は、彼がその生涯を閉じるまで十八年間続けられました。（つづく）

※人氣…人の気持ち。感情のこと。



大島有隣の寿碑・有隣塚

（社会教育課 町史・文化財担当編）

## みんなでつくる 愛される図書館⑪

問合せ 町立図書館 ☎ (33) 4056

### 読書手帳

図書館では、小学生以下の図書館利用者を対象とした「読書手帳」を受付カウンターなどで配布しています。「読書手帳」には、図書館で借りた本のレシートを貼って感想や満足度を入れたりすることができる「履歴ページ」や「チャレンジ！100さつ読めるかな？」などのページがあります。

子どもたちにとって「身近な相棒」となってくれるよう作成しました。本を読み重ねていく楽しみをぜひ知ってください。



杉戸町マスコットキャラクター「すぎぴょん」

700冊を達成したお友達もいるよ！  
色々な本を読んでみよう！



★100冊ごとに図書館で表彰!!★



ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。



杉戸町ホームページ



メール配信  
すぎめー



広報スマホ版  
マチイロ



杉戸町  
公式LINE